

聖書：ヨシュア記5章1～9節

説教題：そしりを取り除く神

1 すべてが順調

(1) ヨルダン川を渡る

イスラエルがモーセに率いられてエジプトを脱出してから四十年が経ちました。ヨシュアが新しい指導者に立てられ、約束の地カナンに入ろうとしています。その約束の地に入るためには二つの関門を通過しなければなりません。一つ目の関門はヨルダン川です。二つ目の関門は川を渡ったすぐ向こう側にあるエリコという町でした。この二つを超えなければ、約束の地には入れません。

一つ目の関門、ヨルダン川を越えるために、ヨシュアは契約の箱をかついだ祭司たちを先頭に立たせます。祭司たちの足が川の水に浸ったとき水が引き、川底が現れました。そのかわいたところを通って、人々は向こう岸へと渡ることができました。

イスラエルがカナンへの地に入ろうとしているという情報は、もともとそこに住む王たちの耳にも届き、警戒しています。とりあえず、ヨルダン川があるので、簡単には自分たちの方には来られないだろう。それが王たちの読みでした。ところが、王たちは、「主がイスラエル人の前でヨルダン川の水をからした」という事実を知り、腰を抜かします。

(2) 絶対勝てる

このときのイスラエルの人々の心のことを想像してみましょう。偉大な指導者モーセを失って間もない頃でした。これからどうなるのかと不安で一杯です。それが目の前で

奇蹟が起きたのです。自分の足で実際にかわいたところを歩きました。神がともにおられると言う事実をからだで味わいました。一気に光が射してくるよう感じられました。そうするとなんでもできそうな気分になります。次にひかえている第二の関門のエリコ。この勢いで行けば攻め落とせるのではないか。何しろ自分たちには神がついておられるのだから。そんな自信が急速に人々の心の中にふくらんでいきます。

2 割礼を施す

(1) 理由

その瞬間でした。主はヨシュアにこう言われました。「火打ち石の小刀を作り、もう一度イスラエル人に割礼をせよ。」

その理由が説明されています。四十年前、イスラエルの人たちがエジプトを出たときはだれもが割礼を受けていました。でもその人たちは荒野を旅するうちにみな死んでしまいました。今ヨシュアが率いているのは、荒野で生まれた育ってきた次の世代です。割礼を受けていない人たちです。しかし、約束の地カナンに入るためには、割礼を受けなければならない。だから割礼を施す。

(2) 割礼の意味

約束の地に入るために、なぜ割礼が必要となるのか。その理由は創世記17章8～10節にあります。「わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンの全土を、あなた

とあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」
ついで、神はアブラハムに仰せられた。「あなたは、あなたの後のあなたの子孫とともに、代々にわたり、わたしの契約を守らなければならない。次のことが、わたしとあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。」

神はアブラハムと彼の子孫に約束の地を与えると約束されました。その約束を有効にするために人は割礼を受ける。これが神と人との間に交わされた契約書の内容です。私たちは旧約聖書と呼んでいる「旧約」はこのことを指しています。神はこの契約にこだわっておられます。

(3) なぜこのタイミングで

なるほど契約は大切です。守らなければなりません。割礼は必要です。しかし、なぜこのタイミングなのでしょう。

割礼は、男子の性器の皮膚の一部を切り取る作業です。傷が癒えるまで一ヶ月くらいはかかるのではないかと想像します。その間は普通の生活はできません。身体に大きな負担がかかります。

ところが、今はどんなときでしたか。この勢いでいけば、一気にエリコを攻め落とすことができる。イスラエル全体がそんな勝ちムードで一色です。そんなときに割礼をせよと言われました。冷たい水をザブンと頭から浴びせられたようなものです。一番悪いタイミングです。割礼が必要だというのなら、もっと違うときにやればよいのです。例えば、ヨルダン川を渡る前にやっておけばよい。荒

野にいる間ならいくらでも時間がありました。なぜ神は、わざわざこのときをめぐめるようにして、割礼をせよと言われたのでしょうか。その理由を知りたいと強く思います。

3 そしりとを取り除く

(1) そしりとは何か

9節のみことばを見ます。「すると、主はヨシュアに仰せられた。「きょう、わたしはエジプトのそしりを、あなたがたから取り除いた。」「そしり」とは、悪く言われることとか、けなされること、非難されることを言います。「エジプトのそしり」とはいったい何を指しているのか、ここだけ見てもわかりません。

話は四十年前のことにさかのぼります。エジプトから出て来た人々がカナンを目前にしたときのことで、モーセはカナンの地に偵察隊を派遣しました。戻ってきた偵察隊は、あそこには強い人たちが住んでいるから自分たちは勝ち目がない、と悲観的な報告をします。それを聞き、人々はエジプトに帰ろうと言いだします。ヨシュアは、主を信じてカナンの地に行こうと説得を試みるのですが、逆切れした民たちはヨシュアをも殺そうとします。結局これが主に逆らったということになり、エジプトから出て来た人たちはカナンの地を見ることができなくなりました。

人々がヨシュアを殺そうといきり立っているとき、モーセが間に割って入り、主に祈ります。そのなかの祈りにこうありました。民数記14章15、16節。「そこでもし、あなたがこの民をひとり残らず殺すなら、あなたのおわさを聞いた異邦の民は次のように言うでしょう。『主はこの民を、彼らに誓った

地に導き入れることができなかつたので、彼らを荒野で殺したのだ。』

主に逆らった者は約束の地に入れぬ。確かに神の義から言えばその通りです。けれどももしそれで終わったならば、異邦の民は言うだろう。神は人を救うことができない。だから全員殺したのだ。そうやって人々はイスラエルの神を非難し、悪く言うようになる。だから思い直してもらいたい。こうやってモーセは、主にとりなしました。これが、「エジプトのそしり」の意味です。

(2) どのようにして

これに対して、主はどうされたのでしょうか。神の義、神の正しさから言えば、主に逆らった者は死ぬこととなります。それに対して人が不平を唱えようとも、それに対して弁明する責任は神にはありません。

しかし実際などどうであったのか。主は、モーセの祈りを忘れてはいませんでした。覚え続けています。モーセの願いを真正面から受けとめ、何とかしなければと考え、主は二つのことをいたします。

一つ目は7節にあります。「主は彼らに代わって、その息子たちを起こされた。」親の世代は、神に逆らった罪のために、約束の地を見ることはありませんでした。けれども主は、次の世代のこどもたちにチャンスを与え、約束の地カナンに入るようにと導いて行かれます。

神の救いの計画は、人の目から見るとならいかに遅過ぎて、なにも進まないように見えるときがあります。そんな状態を見て、ある人は神の救いは嘘ではないかと言うこともあります。あるいは、救いは間に合わなかつたと言うこともあります。そんなことばを聞

くと、神の救いがそしられているように感じ、悲しくなることがあります。言い返せない自分がまたもどかしくなったりします。

しかし、がっかりする必要はありません。神は、親から子へと何世代にもわたる時間の広がりの中で救いの計画を進めておられます。人からそしられるようなことは、絶対になさらない。その事を覚えていただきたいと思います。

主がして下さった二つ目のこと。それが割礼です。主が誓って下さった約束の地に入るのはだれですか。割礼を受けた者です。それ以外の者はいれません。もし無割礼のまま入るならば、かつてアブラハムと交わした契約は何の意味もないこととなります。結局そこで、神はそしられることとなります。だから割礼を施します。

でもなぜこのタイミングなのでしょう。先ほど触れたように今、イスラエルは自分たちの力で前に突き進もうとしています。でも、約束の地に入るのはだれの力によることなのですか。人の力ですか。そんなことはない。神の力がです。神はそのことを示そうとされます。だからこのタイミングでイスラエルの力を削ぎ落とします。わざわざ力を弱くしていきます。こうすることで、イスラエルはからだに痛みを覚え、身をかがめながら約束の地に入る門をくぐることとなります。

(3) 主がなされたこと

主イエスがなされたことも同じです。この方は神でありましたが、私たちと同じ罪人の姿をとられました。神としてのすべての力と権威を十字架でお捨てになりました。自分を救うことができたのに、救うことはしません。父なる神が、死からよみがえらせてくださ

ることを信じ続け、いのちまでもお捨てになりました。それを見たとき、人々は主の救いは間に合わなかったと思いました。十字架につるされたイエスの姿を見た者は、神の救いはなかったと大声でそりました。

しかし、この方は三日目によみがえられます。そのとき人々は初めて理解しました。私たちが約束の地に招くために、この方は身をかがめて、弱い姿になられた。ただ信仰によって約束の地へと救われていくという神のご計画を、この方は身をもって私たちに示して下さっていた。主を信じるという心の割礼を受けて、私たちはあのイスラエルの人たちのように約束の地に招かれています。

救われるために何かをしなければと最初はだれもが思います。いいえ。そうではありません。むしろ神は私たちの力や能力やよいと思っていたあらゆるものを取り去ります。すべてを失ってしまったと思った時、私たちは主の御手によって天の御国に招かれて行きます。

主の不思議なみわざを覚えて感謝いたします。